

受賞記念講演：「グローバリゼーション、ロボット、そして未来の仕事」

経済・社会科学賞 / リチャード E. ボールドウィン(ジュネーブ高等国際問題開発研究所国際経済学教授)

今日、ロボットやAIがいかに働き方を変えるかということが毎日のように言われています。そのようなデジタル技術は、働き方だけでなくグローバル化の形をも変え、そしてそのグローバル化がロボットと同じくらい働き方を変えます。デジタル技術によりグローバル化と自動化が信じられない速さで進んでいることを強調するために、「グローバリゼーション(グローバル化)」と「ロボティクス(ロボット化)」を合わせて「グローボティクス」という言葉をつくりました。この講演では、このグローボティクスが、今後の働き方をいかに変えるかについて話したいと思います。

今回のグローバル化は過去のものとは違います。デジタル技術の進歩により、我々の予想よりかなり速く、しかも全く予想しない形で到来します。従来のグローバル化は、物質の物理学に影響を受けるものでしたが、今後はサービス、つまり情報に関わるものであり、電子の物理学に影響を受けます。また、コンピューターが機械学習によって「思考」能力を備え、見たり、聞いたり、話したり、画像を認識したりすることができるようになったため、過去には不可能であった、サービスセクターや専門職における仕事の自動化が可能になりました。つまり、デジタル技術の進歩により、サービスセクターや専門的な仕事でもグローバル化が進んでいるのです。

では、将来の働き方がどのようになるかを考えてみましょう。

デジタル技術は、自動化、つまりAIと、グローバル化、つまりRI(リモートインテリジェンス)を通して、その威力を発揮しています。まず、仕事や職業について考えると、AIにより多くの作業や仕事はなくなるかもしれませんが、なくなってしまう職業はほとんどないでしょう。ですから、全ての仕事や作業の中でAIに何ができるかを考えるべきです。

一方、AIの主要な部分は機械学習ですが、機械学習でコンピューターが行えるのは過去に人間が行ったことだけです。また、機械学習にはビッグデータが必要ですが、そのデータは質問も結果も明確なものです。しかし、日々の仕事や暮らしにおける人間の行いの多くは明確ではないし、曖昧です。このよう

に曖昧で、人間的な仕事については、機械学習が人間に取って代わることはありません。

次に、RIについて考えてみましょう。すでに欧米では在宅勤務が可能な環境が整えられていますが、デジタル技術により、今度は国際的な在宅勤務というものが可能になっています。このような働き方を示すものとして、「テレマイグレーション」という新たな用語をつくりました。テレマイグレーションは、在宅勤務のためのソフトウェアの導入や、アップワーク等のフリーランス・プラットフォーム、高度な通信、機械翻訳といったデジタル技術により、ますます進むと思われる。特に、機械翻訳については精度が格段に向上しており、仕事を行うのに十分な水準であるため、世界的な人材の津波を引き起こすことでしょう。グローバル化においては裁定取引が行われるため、発展途上国の有能で安価な賃金の労働者が、サービス市場に参入し、富裕国の仕事を行うということが可能になっています。

しかし、RIにも限界があります。直接相手と対面しなければいけない仕事や、物理的にその場にはいないといけないサービスについてはRIが取って代わることはできません。

したがって、長期的に見た将来の働き方としては、ロボットは彼らができることを行い、我々は彼らができないこと、つまり、より人間的で地元での仕事を行うということになります。そのためには、我々はグローボットができないスキルを身につけなければなりません。

ただ、そこまでの移行期が心配です。デジタル技術に代替できない仕事の創出は人間の創意工夫と起業家精神にかかっていますが、デジタル技術は爆発的に拡大しています。富裕国においてホワイトカラーの多数の仕事が短期間のうちに機械に取って代われ、社会的な破壊が引き起こされるようなことが今後数年間で起こるかもしれません。我々は、このことに注意すべきであり、政府はその認識が広まるよう支援するとともに、そのような状況の進度が速い場合は遅くなるようコントロールすべきです。

